病院・薬局連携を指向した実務実習の構築に向けて

佐賀県薬剤師会 実務実習委員会の取り組み

地方独立行政法人 　佐賀県医療センター好生館　薬剤部　德永　晃

一般社団法人 　佐賀県薬剤師会実務実習委員会　委員長　高木　一範

平成31年2月より新コアカリキュラム準拠　実務実習がスタートした。事前準備として平成30年度より佐賀県薬剤師会実務実習委員会へ病院薬剤師代表として参加し協議に参加した。月1回の定期報告会では病院での教育指針やガイドライン等を提示や病院実習カリキュラム、院内調剤内規等の提供を行った。 また委員会では日本薬剤師会実務担当者会議の伝達事項を共有し考察した。この度佐賀県学術大会の機会を得て会員の方々へ以下の問いについて実務実習委員会の取り組みと、病院実務実習の内容等について概説する。また、まとめとして、今後の活動目標について提案する。

問い1. 長期実務実習 改訂コアカリキュラムとは

問い2．病院薬剤師の業務とは：共通点と相違点そして連携への模索

例）医薬品適正使用サイクルにおける薬学的管理時の確認項目（病院）

1.禁忌・アレルギー薬剤の回避 　2.オペ・検査前休薬と再開時　 3.適応症、用法、用量

4.持参薬切り替え時　5.相互作用や同種同効薬の重複　6.中止薬剤の再処方、追加薬剤のもれ 　7．腎機能低下時の提案 8.注射薬の投与速度、配合変化9.適切な抗菌薬の使用支援10.投与設計⇒解析⇒処方提案 　11．保険上の制限（投与日数）の確認 　12.ガイドラインや文献による処方薬確認 　13.患者の状態を評価し処方支援 　14.コンプライアンス15.検査の依頼　16.退院時の過不足

問い3．実習指導薬剤師による 評価・課題・今後の関わり方

概略評価の一例

★「STEP１」 添付文書を読む

★「STEP2」 添付文書を正しく読む

★「STEP3」 添付文書を正しく理解する

評価の問題点として、伸長度の確認を指導者の責任ある主観で評価する点がある。しかし 学校が行う単位に係る評価は日誌・出席状況・実習態度 （全体の2割程度）であり、実務実習指導薬剤師の評価に対する影響は小ない。一方大学側からも実務評価をするには実習期間（11週）はあまりにも短いとの指摘がある。

まとめ

提案：実務実習指導薬剤師の役割は今後どのようなものとなるべきか。またそのアウトカムは何かを考え設定し、モニタリングすべきと考える。

ふるさと実習の成果測定（モニタリング）をしてはどうか。（5～10年単位）

★実習生の地元就職率

　地元就職新社会人についてモニタリングを行い必要に応じ相談窓口の役割を果たす。

★地域活動や学術活動への参加状況

★学術活動への支援　（研究助成やコンサルティング）状況

★地域包括ケアシステムのなかで　多職種連携補助

★病院薬剤師との連携（退院時カンファレンス数向上）

おわりに

薬剤師の未来を若い世代へ委ねるために何ができるか、共に考えたいと思います。

キーワード：ふるさと実務実習　アウトカム　病院開局連携